

人権尊重

長谷工グループでは、すべての人の基本的人権を尊重し、個人の尊厳を傷つけることのないよう配慮し業務にあたっています。

● 人権に関する基本的な考え方

長谷工グループでは、「長谷工グループ行動規範」の中で「人権の尊重」を明文化しています。グループの社員一人ひとりが人権に対して理解を深め、常に高い意識を持って業務にあたることができるよう、グループ内での浸透を進めていきます。

長谷工グループ行動規範(抜粋)

- 2. 行動の基本姿勢
 - (4) 人権の尊重

あらゆる企業活動の場において、すべての人の基本的人権を尊重し、人種、国籍、出生、信条、宗教、性的指向、性自認、年齢、障がいの有無等の理由による差別や個人の尊厳を傷つける行為を行わない。

● 人権尊重のための取り組み

長谷工グループでは、人権に対する意識を醸成するための取り組みの一つとして、新入社員の導入研修で人権に関するテキストを配布しています。

また、派遣社員やパートタイマーを含むすべての従業員を対象に、就業規則等でハラスメントに該当する行為を禁止しています。ハラスメントを予防するために、社員向けのeラーニングで定期的に教育を行うほか、社員に配布してい

る『コンプライアンス通信』や社内掲示のポスターを通じて、啓発を行っています。加えて、社員からのハラスメントに関する相談は、内部通報制度における社内及び社外の窓口にて受け付けています。

さらに、結社の自由や団結権、団体交渉権、団体行動権を企業として尊重すべき基本的な要素と考え、その旨を労働協約の中で定めています。

CSR教育・啓発

社員一人ひとりがCSRに取り組めるよう環境づくりを進め、教育・啓発をしています。

● CSR教育・啓発

長谷工グループでは、「CSRビジョン」「CSR方針」に基づき、すべてのグループ社員がCSRを理解し、日常業務の中で実践していくため、グループ内でのCSR教育・啓発に力を入れています。

2019年度は、グループ一般社員を対象にCSRに関する講演会の開催、またグループ全社員を対象にeラーニングを使用しての学習を実施しました。

これからも長谷工グループでは、社内報やイントラネットなどを活用し、最新のCSRの動向やグループ内でのCSRの取り組みに関する事例などを積極的に紹介していく、社員一人ひとりの行動につながる教育・啓発を継続します。



社会貢献活動推進

地域とのかかわりを大切にし、積極的に社会貢献活動を推進しています。

地域課題への貢献

● 明日香村プロジェクトの推進

奈良県の中央部に位置する明日香村は、律令国家体制が形成された地であり、飛鳥時代の歴史遺産が周囲の自然環境と一緒にとなっていることから、「日本之心のふるさと」ともいわれています。当社では、2015年より明日香村の村内産野菜を長谷工グループが管理するマンションで販売するなどの支援活動を続けてきました。2017年9月には、明日香村及び(一財)明日香村地域振興公社と、古都飛鳥の

歴史保全活動並びに明日香村の産業及び地域活性を図るためにプロジェクトに連携して取り組み、相互に協力することを目的とした「官民連携に関する包括協定」を締結。「明日香村を堪能する」「明日香村を経験する」「明日香村に居住する」の三つのテーマ別にプロジェクトを推進、古都飛鳥の歴史保全活動並びに明日香村の産業及び、地域の活性化に寄与していきます。

明日香村ふるさと納税の寄付

当社では、「企業版ふるさと納税制度」を活用し、2018年から毎年明日香村に寄付を行っています。

2019年度は、飛鳥駅周辺の魅力強化プロジェクト、マラソン大会による地域活性化プロジェクトに寄付を行い、寄付金は①農業振興施設内の機器整備、②古墳等の復元整備、③飛鳥ハーフマラソン大会事業に活用されています。

第2回「地方創生応援税制に係る大臣表彰」受賞

当社は、内閣府による第2回「地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)に係る大臣表彰」を受賞しました。

同表彰は、地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)の活用において特に顕著な功績を上げ、他の模範となると認められる活動を行った地方公共団体及び企業に与えられるもので、明日香村(村長:森川 裕一)が内閣府より認定を受けた地域再生計画「飛鳥駅周辺の魅力強化プロジェクト」における当社の取り組みが高く評価されたものです。



表彰式の様子

貸し農園「長谷工明日香コミュニティファーム」

長谷工コミュニティでは、明日香村の景観と農業を経験してもらう取り組みとして、貸し農園「長谷工明日香コミュニティファーム」を2018年5月にオープンしました。2019年度は社内イベントの他、モデルルーム来場者や提携企業との野菜収穫体験を実施しました。今後も農園利用者と地域との交流促進を進めています。



長谷工明日香コミュニティファーム



芋ほり体験



● 地域の清掃活動・キャンペーンへの参加

長谷工グループでは、事業活動において関連の深い地域での清掃活動に参加しています。

芝本社ビル周辺での清掃活動

東京都港区主催「芝地区クリーンキャンペーン～路上喫煙ゼロのまち！～」に2009年より参加しています。2019年度は2019年10月10日と2020年2月18日にグループ社員延べ105名が参加し、芝本社ビル周辺地区での清掃活動や、通行人への歩行喫煙防止の呼びかけを行いました。



「芝地区クリーンキャンペーン」清掃活動の様子

大阪平野町ビル周辺での清掃活動

大阪市主催「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」に2006年より参加しています。「大阪マラソン2019」に先立ち、全国から参加するランナーをきれいな街並みで迎えられるよ

● 長谷工社会貢献活動表彰制度

長谷工グループでは、社員の自発的な社会活動への取り組みが、社会課題への意識を醸成し、事業活動におけるさらなる価値創造や持続可能な社会の実現につながると捉え、社会貢献活動のより一層の活性化を図っています。

社員一人ひとりの意識を高めるとともに、個人・企業としての社会貢献活動に対する評価を明確にする目的で「長谷工社会貢献活動表彰制度」を運用し、特に顕著な活動をした

社員・団体を表彰のうえ感謝状を贈呈しています。

2019年度の活動実績は、会社主催CSR活動及び個人ボランティア活動が延べ2,095名、企業活動上の社会貢献活動が5件でした。そのうち特に積極的に活動した6名と1団体を表彰しました。今後も長谷工グループにおける社会貢献活動をより活性化するべく制度を運用していきます。

2019年度 表彰受賞者インタビュー

小さな個々の力も 結集すれば大きな力に

2019年10月の台風19号による災害ボランティアに参加しました。ドライブ中にたまたま「ボランティア受付会場」の看板を見かけ、ボランティアが必要とする災害が自宅から約30分の身近な場所で起きていることを知り、何かできることはないとその翌日に入門をたきました。

災害が起つてしまったら、まずは避難して、命を守ることが一番です。生きている限り復旧は出来ますし、ボランティアが手助けしてくれます。今回参加して、そのことを実感しました。個々の力も、結集すれば大きな力になります。災害は起きないことが一番ですが、万一起きてしまったらまた参加しようと思っています。



支店
長谷工コミュニティ
横浜支店
施設管理部
鈴木 康二

自分自身が楽しみながら 仕事とは別の達成感を得る機会に

以前、新築工事の現場管理に従事していた時は、社会貢献活動に縁がなかったのですが、異動によって週末の時間が比較的自由になったことをきっかけに長谷工グループの環境保全活動に参加するようになりました。

私が特に心掛けているのは、自分自身が楽しみながら活動すること。自然の中で身体を動かすことでリフレッシュさせてもらっていますし、グループ社員との交流も楽しみの一つです。

継続的に参加することで、過去に作業した場所が次第に整備されていく様子を確認でき、仕事とは別の達成感が得られる機会になっています。



長谷工不動産ホール
ディングス
建築部門 建築一部
チーフ
木村 正芳

寄付・協賛

● 「HASEKO-KUMA HALL」が竣工

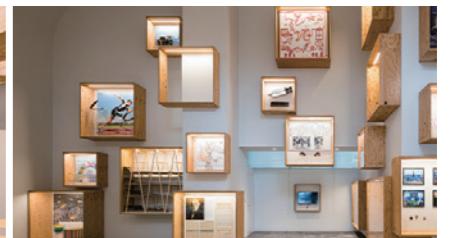
当社が東京大学工学部11号館「講堂」「ラウンジ」の設計・施工を寄付する形でリノベーションした、新たな発信・交流拠点「HASEKO-KUMA HALL」が2020年1月に開設しました。

デザイン・基本設計は、「長谷工住まいのデザインコンペティション」で審査委員長を務めるなど、学生育成活動を通じて親交の深い、同大学大学院工学系研究科教授隈研吾氏が手掛け、実施設計と施工は、当社と長谷工リフォームが共同して担当しました。

リノベーション工事にあたっては、これまでに事業活動で蓄積した知識と経験を活かして、キャンパスの利用者に迷惑をかけないこと、改修の安全性、快適性、機能性を向上させることに



リノベーション工事により生まれ変わった「講堂」



学生による研究成果を展示する「Lounge BOX 41」

注力し、学生がより安心して快適に学べ、憩うことができる空間づくりを目指しました。

この取り組みにより、東京大学より、「工学部11号館「講堂」・「ラウンジ」のリノベーションの寄付」に対する感謝状を授与されました。

● 「生きた建築ミュージアム フェスティバル大阪(イケフェス大阪)」へ初参加

「生きた建築ミュージアム フェスティバル大阪(イケフェス大阪)」は、毎年秋の週末に大阪の魅力ある建築を公開する建築イベントです。

2019年、当社は本イベントに初参加。当日は大阪本社である平野町ビル内の1Fロビー部分の「HASEKO GALLERY OSAKA」および6Fにあるマンションデザインのプレゼンスベース「LIPS」を開放し、マンションの長谷工が提案する新しいマンションライフスタイルを実感・体験いただきました。



本大会応援の様子



● 「こども本の森 中之島」への寄付

当社では、本や芸術文化を通じて子どもたちが豊かな創造力を養ってもらう施設として活用してほしいと建築家の安藤忠雄氏が設計し、大阪市へ寄付される図書施設「こども本の森 中之島」へ2018年から寄付を行っています。

書施設「こども本の森 中之島」へ2018年から寄付を行っています。寄付は5年間継続する予定で、大阪の子どもたちの創造性、感性を育む場として運営される本図書施設の蔵書の購入・施設の管理運営に活用されます。



● 「SEIJI OZAWA MATSUMOTO FESTIVAL」への協賛

「セイジ・オザワ・松本フェスティバル」は、指揮者・小澤征爾氏とサイトウ・キネン・オーケストラが中心となって、長野県松本市で1992年より毎夏開催されている国際的な音楽祭です。

当社は、「国際的な音楽祭を日本で」という主旨や次世代若手音楽家の育成、小中学生の音楽情操教育支援という目的に賛同し、開催当初から協賛してきました。協賛を通じ、芸術・文化活動の発展に取り組んでいます。